

**2021年度（令和3年度）
第1回みんなのライフスタイル応援会議**

会議資料

2021年（令和3年）7月7日

福山市企画政策部企画政策課

議題

1 福山市の人口動態

- 1-1 人口減少の進行による悪影響と人口減少対策の推進
- 1-2 令和2年（2020年）国勢調査速報値
- 1-3 福山市の自然動態
- 1-4 福山市の社会動態
- 1-5～8 ライフステージごとの状況（進学期，就職期，子育て期，移住）
- 1-9 人口動態やライフステージを踏まえたターゲット（ペルソナ）設定

2 次期人口減少対策の方向性（案）

- 2-1 次期人口減少対策の目的
- 2-2～4 次期人口減少対策の方向性（案）（進学・就職期，子育て期，移住）
- 2-5 次期人口減少対策策定に向けたスケジュール（案）

3 アクションプラン2021の推進

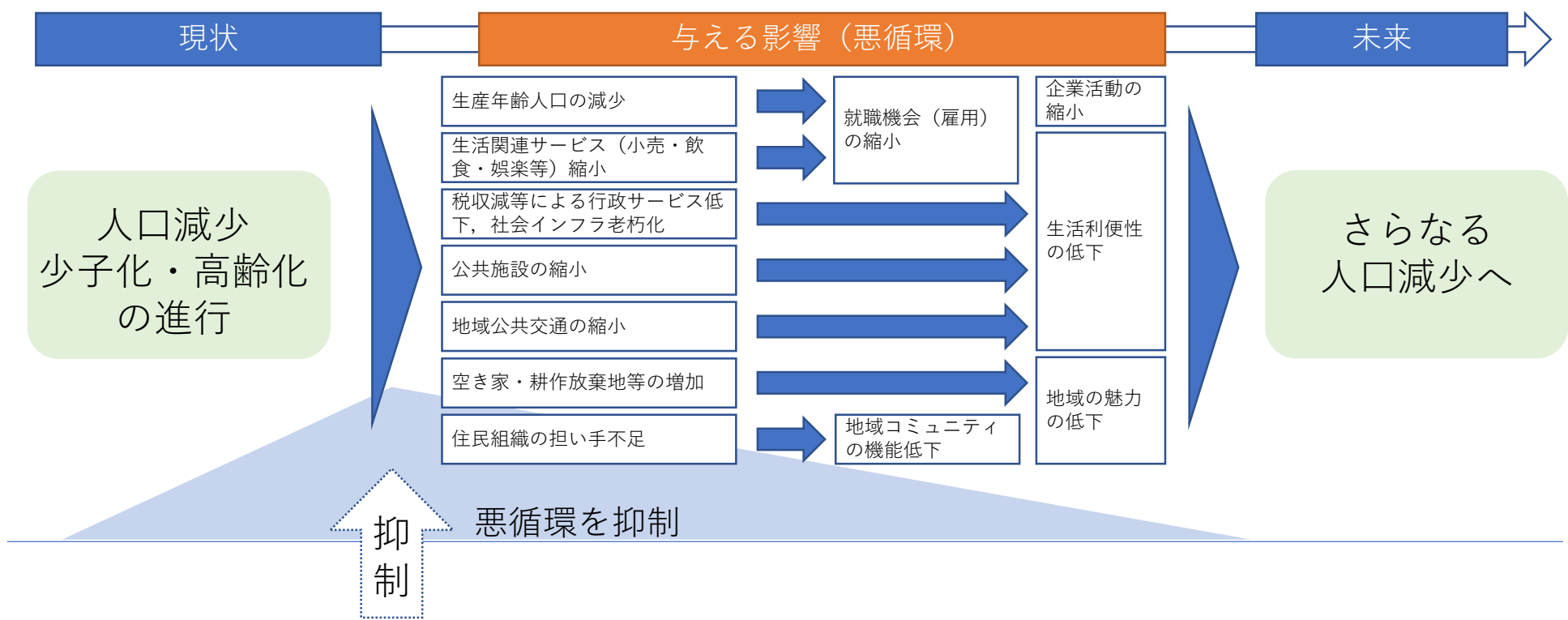
- 3-1 アクションプラン2021の主な取組
- 3-2 子育てパパ活躍ウィークの実績
- 3-3 子育てパパ活躍ウィークの参加拡大に向けて
- 3-4 ワークショップの開催（案）

別紙 人口減少対策アクションプラン レビューシート

1 福山市の人口動態

1-1 人口減少の進行による悪影響と人口減少対策の推進

- 人口減少が加速度的に進行することで、**企業活動の縮小**や**生活利便性の低下**、**地域の魅力の低下**といった悪循環が生じ、さらなる人口減少を生み出していく。
- この悪循環を抑制するため、**2018年8月に「新たな人口減少対策～強化策～」**を策定し、これに基づき、「**みんなのライフスタイル応援会議**」を中心に、**官民連携で人口減少対策に取り組んでいる**。

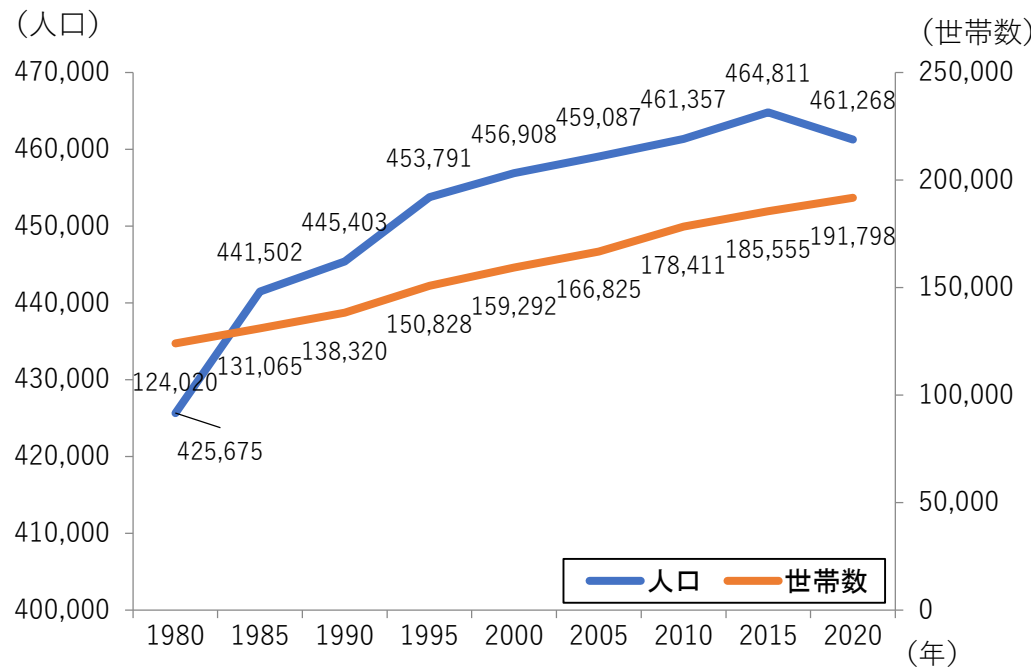


人口減少対策を強化 ⇒ **人口減少対策アクションプラン (2019～)**

…別紙参照 (取組レビュー)

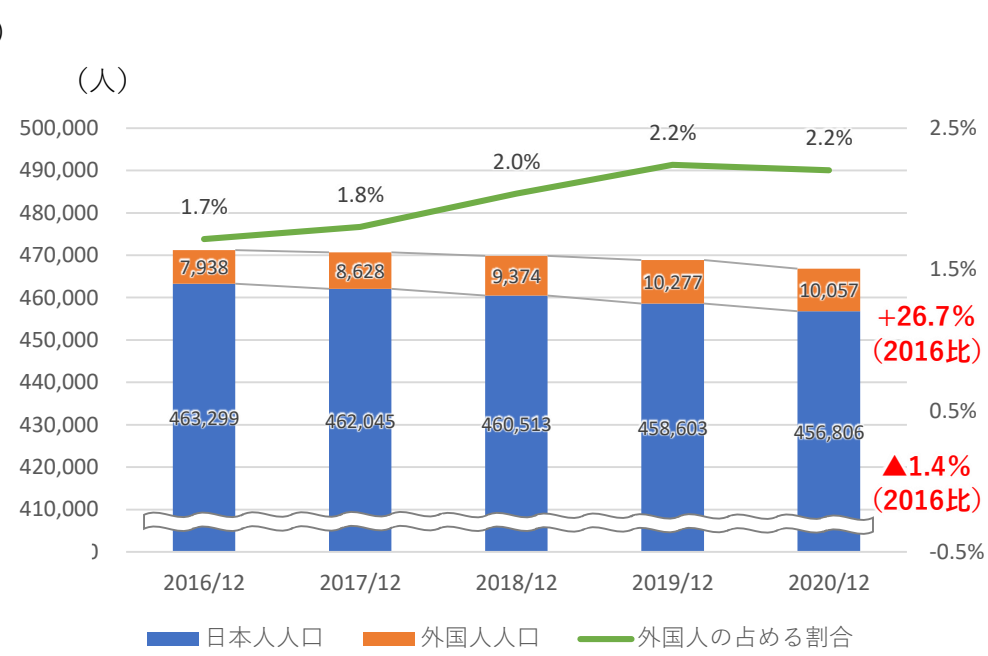
- 最新の国勢調査で、福山市の人口が80年ぶりに減少。前回（2015年）から、3,543人（0.8%）減。
- 一方で世帯数は、6,243世帯増加。
- 住民基本台帳で見ると、日本人の減少が継続。一方、外国人は、2020年はコロナ禍で減少したものの、近年増加傾向。

【人口と世帯数】



出所：総務省「令和2年国勢調査（人口速報集計結果）」

【日本人人口と外国人人口】



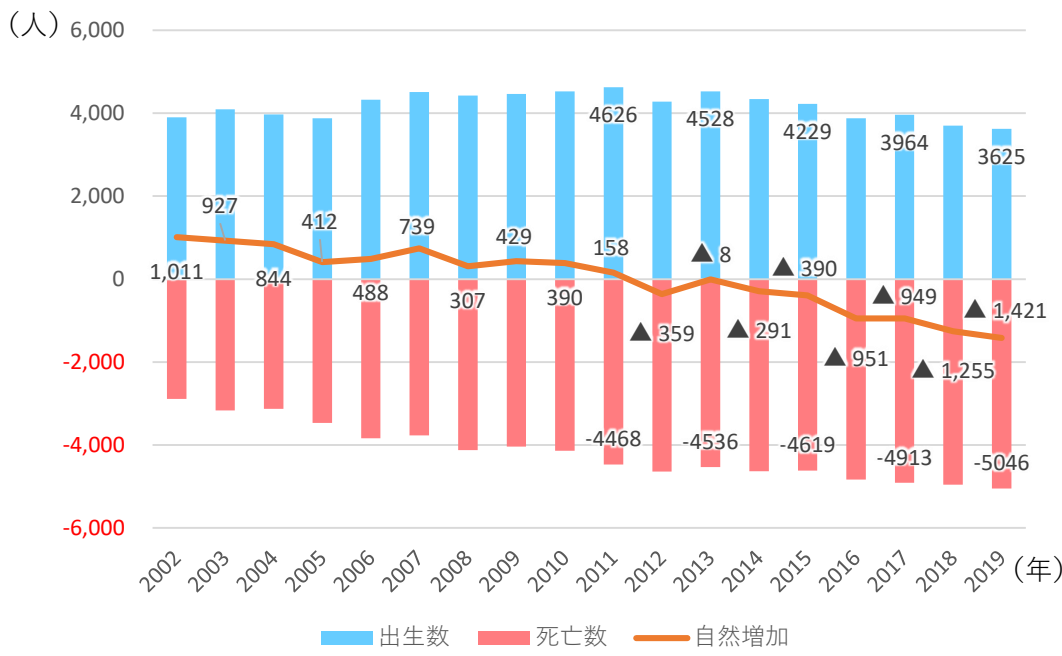
出所：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

⇒日本人は継続して減少。外国人は大きく増加。

1-3 福山市の自然動態

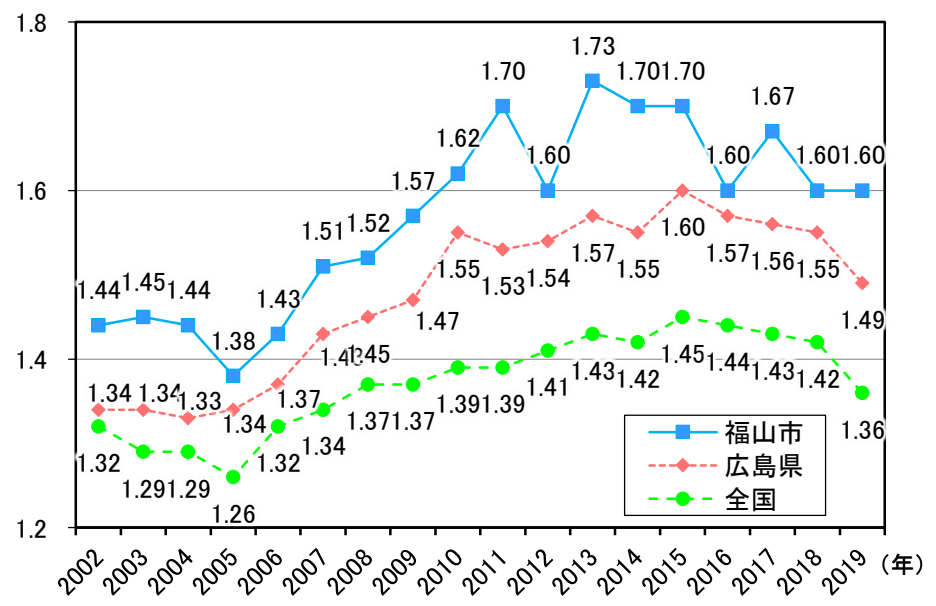
- 自然動態を見ると、**出生数が減少傾向にある一方で、死亡者数は増加傾向。**
- 2011年までは死亡者数を出生数が上回っていたが、**2012年以降は自然減**に転じている。
- 合計特殊出生率の推移を見ると、一貫して、**全国、広島県の平均を上回っている。**
- 近年は、**全国や広島県の平均と同様にやや低下傾向**にあり、直近では、**1.6台**で推移。

【出生数と死亡数の推移】



出所：福山市「福山市人口動態」

【合計特殊出生率の推移】



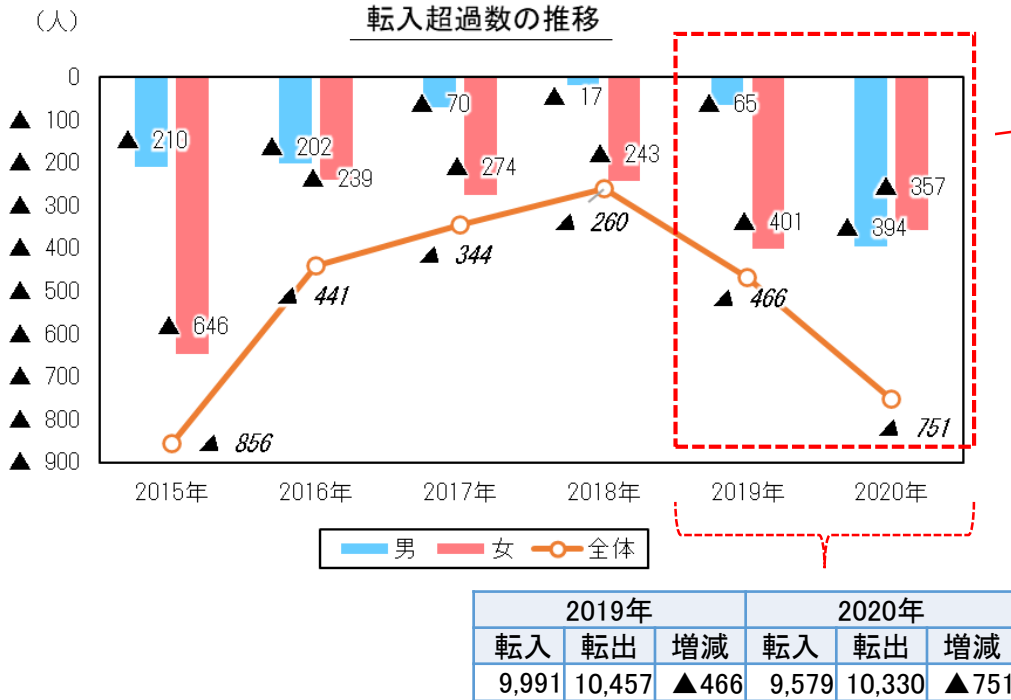
出所：福山市「福山市人口動態」

⇒ **市民希望出生率1.90をどう実現するか。**

1-4 福山市の社会動態

- 社会増減を見ると、2019年までは男性よりも女性の転出超過が大きい。2020年は、男女同水準で転出超過が大きくなっている。コロナ禍で、2019年より転入・転出数ともに減少している。
- 2019年、2020年の年齢別では、特に15～34歳で転出超過傾向。中でも20～24歳の転出超過が最も大きい。
- また、0～4歳の転出超過も一定数あり、子育て世代の転出超過が懸念。

【福山市の社会増減（日本人のみ）】



出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

	2019年男女別年齢階級別			2020年男女別年齢階級別		
	全体	男	女	全体	男	女
全体	▲ 466	▲ 65	▲ 401	▲ 751	▲ 394	▲ 357
0～4歳	▲ 155	▲ 41	▲ 114	▲ 115	▲ 50	▲ 65
5～9歳	▲ 1	▲ 4	▲ 5	▲ 77	▲ 41	▲ 36
10～14歳	▲ 17	▲ 1	▲ 18	▲ 23	▲ 4	▲ 19
15～19歳	▲ 20	▲ 43	▲ 63	▲ 92	▲ 26	▲ 66
20～24歳	▲ 281	▲ 65	▲ 216	▲ 281	▲ 89	▲ 192
25～29歳	▲ 29	▲ 35	▲ 6	▲ 176	▲ 153	▲ 23
30～34歳	▲ 128	▲ 57	▲ 71	▲ 103	▲ 51	▲ 52
35～39歳	▲ 2	▲ 1	▲ 3	59	7	52
40～44歳	▲ 31	▲ 21	▲ 10	▲ 10	▲ 10	0
45～49歳	▲ 23	▲ 17	▲ 40	▲ 1	7	▲ 8
50～54歳	55	43	12	28	5	23
55～59歳	13	15	▲ 2	▲ 12	▲ 4	▲ 8
60～64歳	1	▲ 10	11	0	2	▲ 2
65～69歳	10	8	2	▲ 6	▲ 4	▲ 2
70～74歳	6	14	▲ 8	2	▲ 7	9
75～79歳	7	5	2	20	6	14
80～84歳	18	4	14	7	0	7
85～89歳	37	13	24	11	17	▲ 6
90歳以上	38	6	32	18	1	17

⇒10代、20代、30代のライフステージごとの移動の転機を捉えた分析が必要。

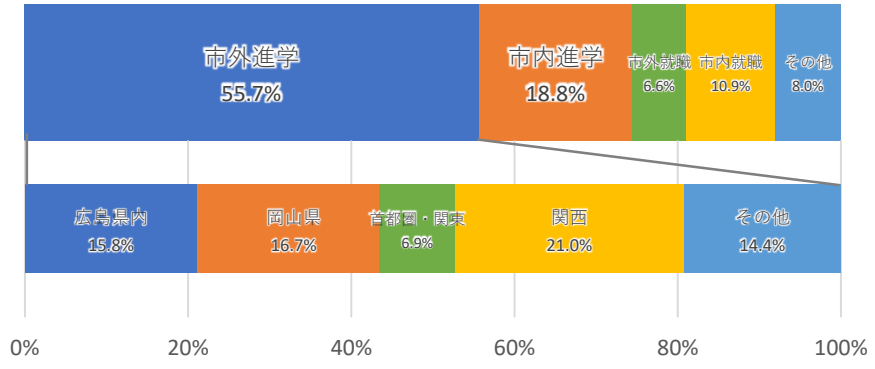
1-5 ライフステージごとの状況(10代後半・進学期)

- 市内高校生のうち、**男女ともに約6割**が市外に進学。市外に進学を希望する理由は、「進学したい学校がない」が最も多く、「一人暮らしがしたい」、「就職に有利」と続く。
- 市内高校生へのアンケートで、将来福山市に**戻りたくない**と答えた学生は約2割で、**わからない・不明が約6割**。戻りたくない理由としては「買い物・遊ぶ場所がない」、「就職したい業種・職種がない」が多い。

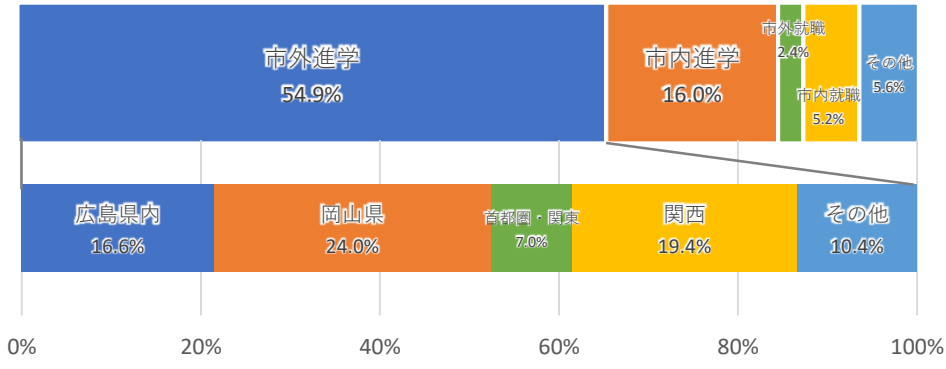
関連データ

出所：「福山市高校生進学先調査」(2021年4月)

【市内高校生の進学・就学先状況(男性)】



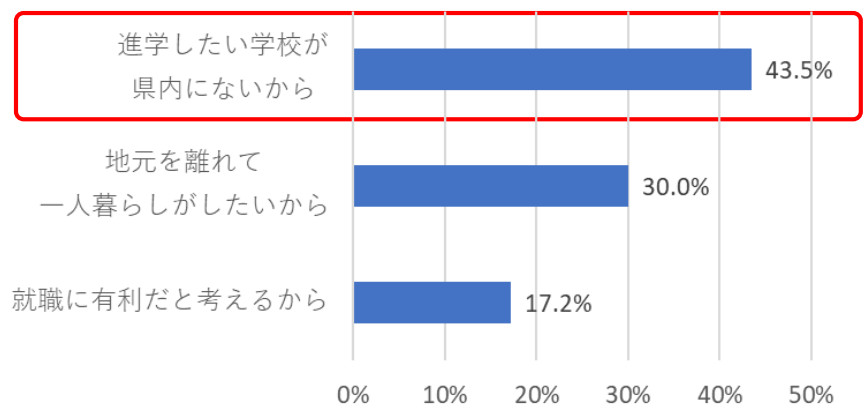
【市内高校生の進学・就学先状況(女性)】



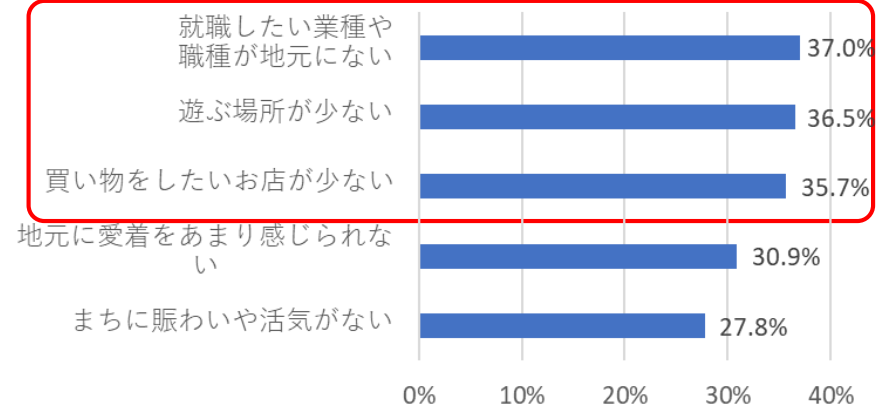
意識(アンケート調査結果)

出所：「若者の定住意向に関するアンケート調査」(2020年7月)

【県外に進学を希望する理由(上位3項目)】



【福山市に戻りたくない理由(上位5項目)】



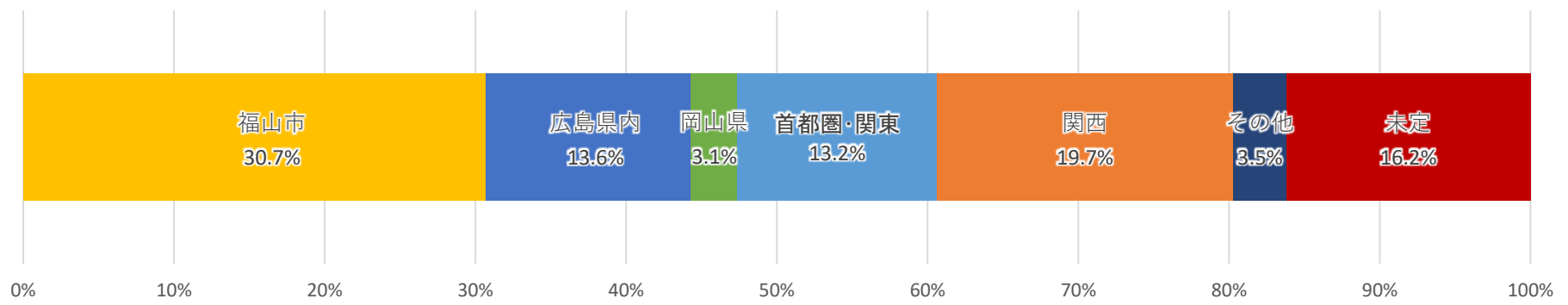
1-6 ライフステージごとの状況(20代前半・就職期)

- 市外大学生（福山市出身）の就職希望地域は、**福山市約3割**、**関西約2割**、**広島県内・首都圏約1割**。
- 市外に進学した学生の企業の選択や働き方の希望は、**やりたい仕事ができることに加え、福利厚生や多様な働き方など、職場環境の充実**を望む声が多い。

関連データ

出所：「市外に進学した福山市出身学生の就職観等に関するアンケート調査」（2020年6月）

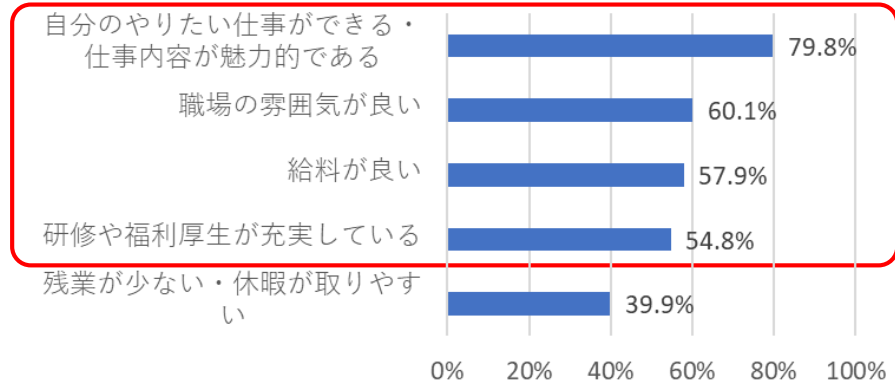
【市外大学生の就職希望地域】



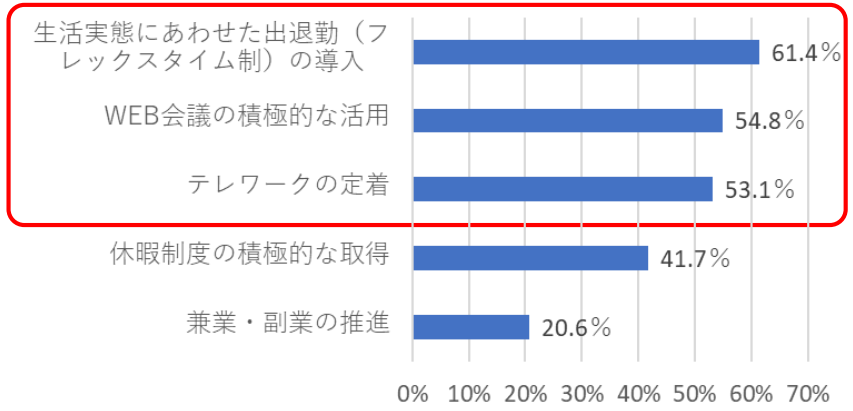
意識（アンケート調査結果）

出所：「市外に進学した福山市出身学生の就職観等に関するアンケート調査」（2020年6月）

【企業を選ぶ際に重視すること（上位5項目）】



【コロナ収束後の働き方（上位5項目）】

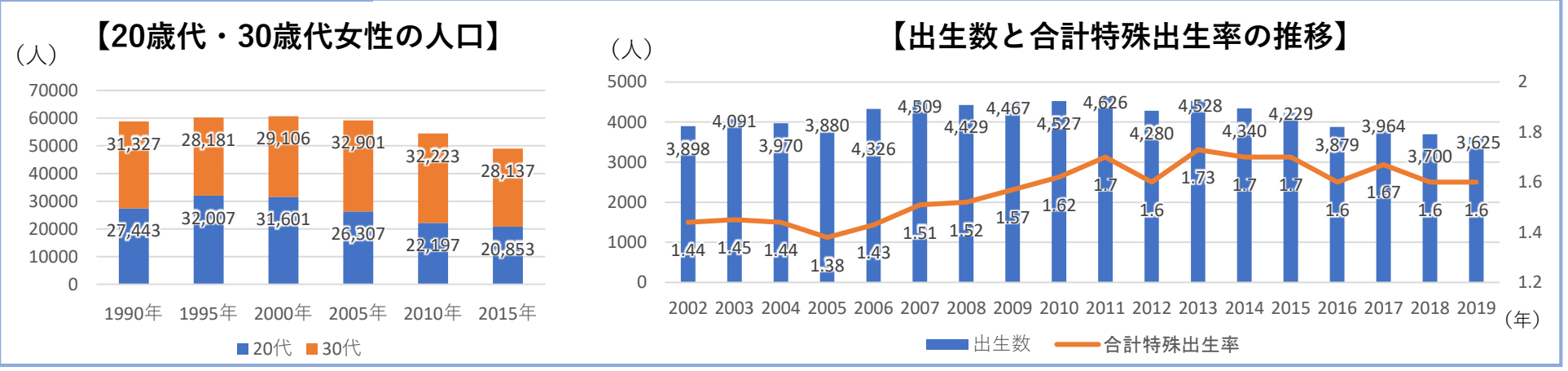


1-7 ライフステージごとの状況(20歳代~30歳代・子育て期)

- 2000年代に入り、**20~30歳代の女性の数が減少**。合計特殊出生率は、広島県や全国の平均を上回っているものの、近年、**女性の数の減少に伴い出生数も減少している**。
- 出産・育児にかかる経済的負担や心理的・肉体的負担を軽減**することで、希望の子どもの数や子育てを実現する必要がある。(市民希望出生率は1.90で、現状で0.3ポイントの差)

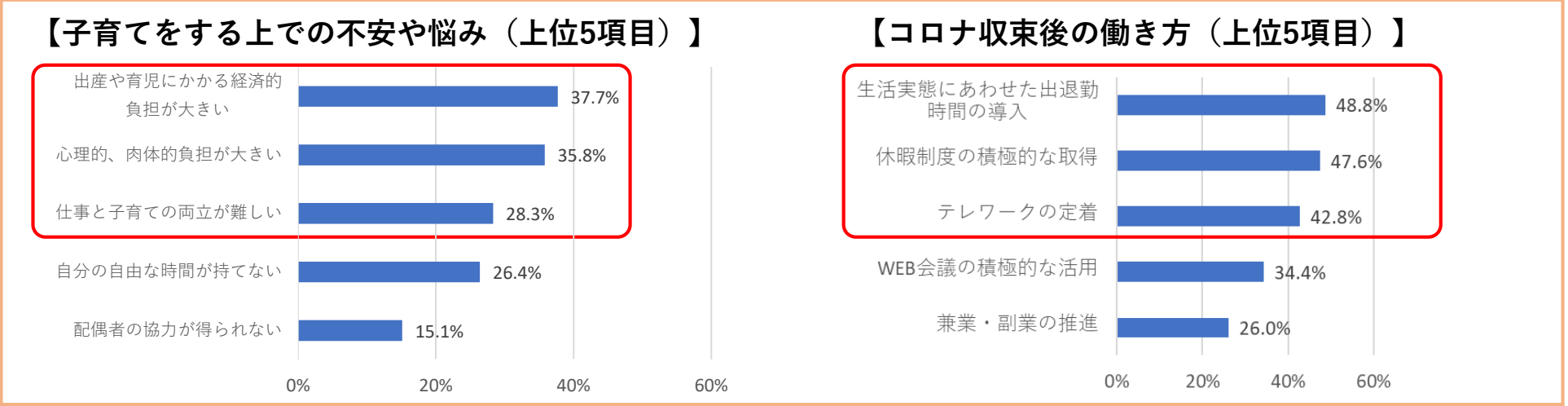
出所：総務省「国勢調査」
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

関連データ



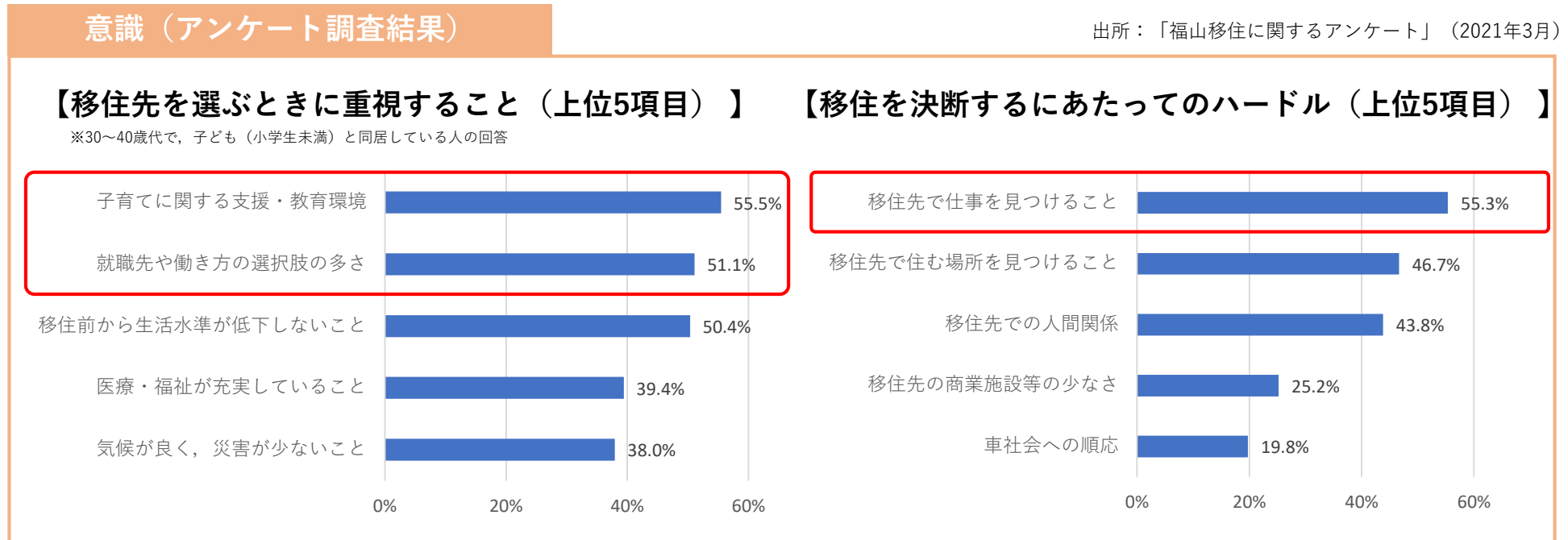
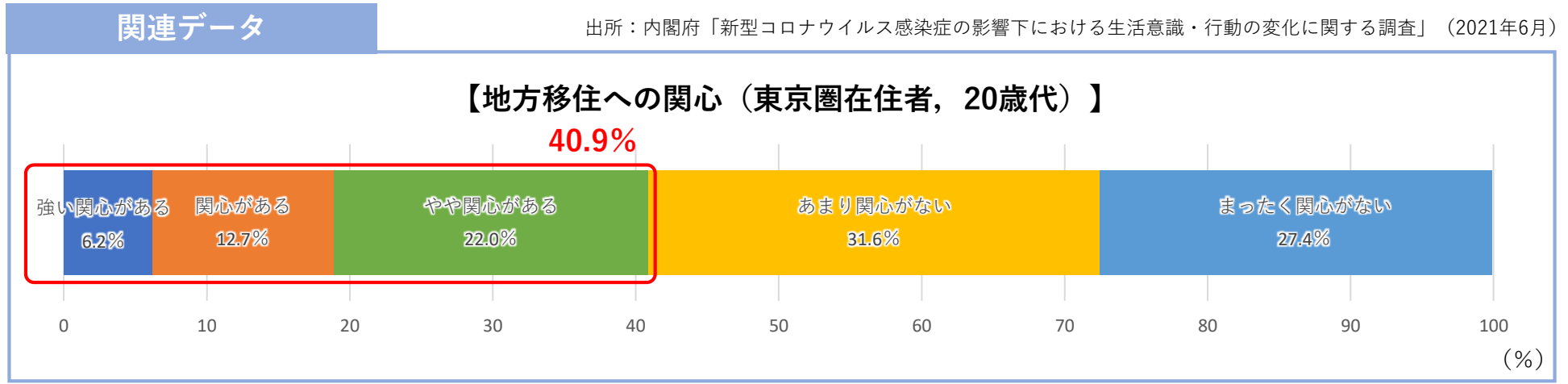
意識 (アンケート調査結果)

出所：「市政に対するニーズ把握のための定量調査」(2018年)
「新型コロナウイルス感染症による住民の意識・行動変化に関するアンケート調査」(2020年6月)

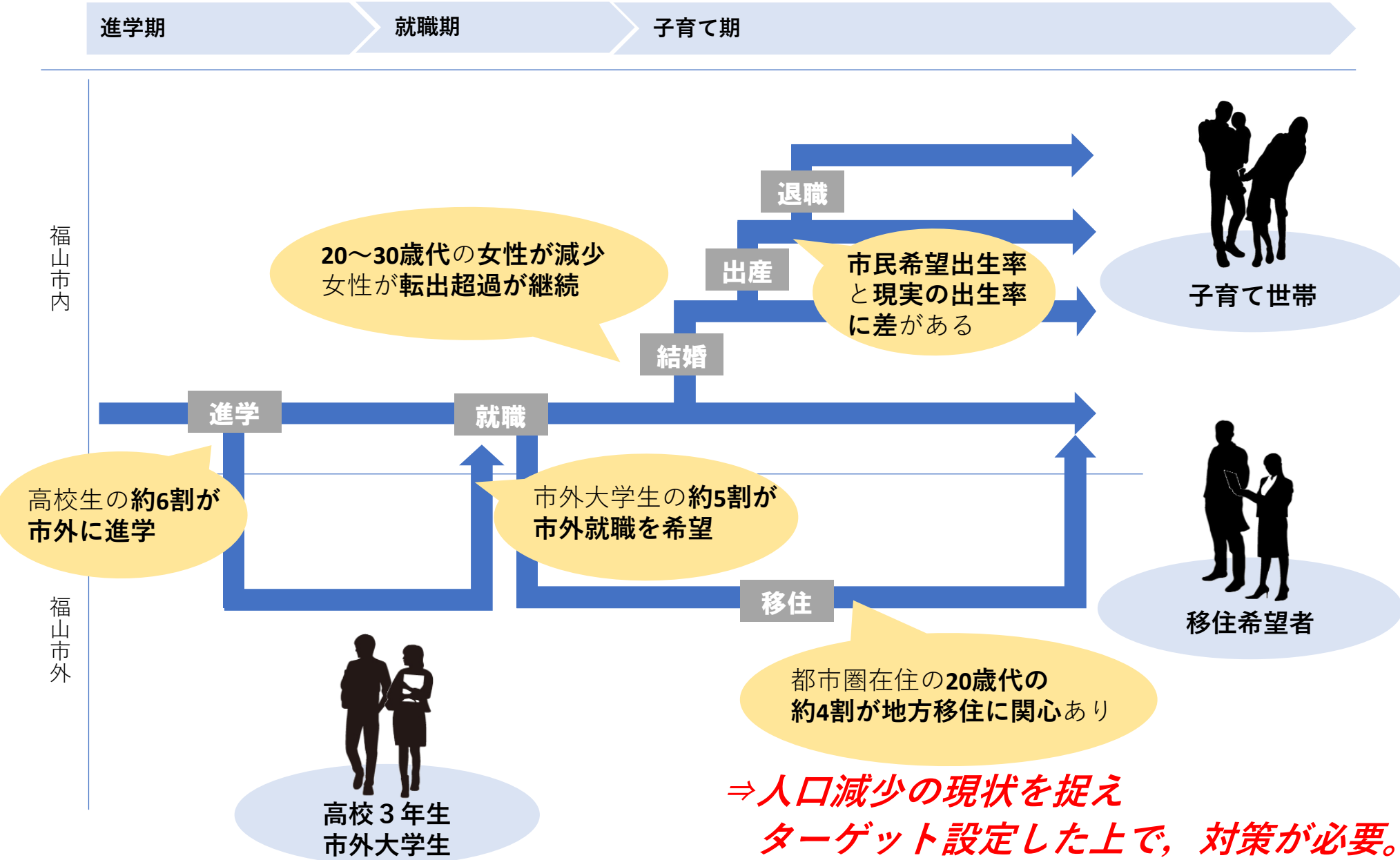


1-8 ライフステージごとの状況(20歳代~30歳代・移住)

- コロナ禍で、特に20歳代で、地方移住の関心が高まっている。
- 移住関心者が望む、子育て・教育環境や働き方の選択肢の充実に取り組む必要がある。



1-9 人口動態やライフステージを踏まえたターゲット(ペルソナ)設定



2 次期人口減少対策の方向性(案)

2040年の目標

多様なライフスタイルが実現できるまち

チャレンジへの選択肢がたくさんある

希望のライフスタイルへのサポート

多様性を尊重しあえる心



高校3年生
市外大学生



子育て世帯



移住希望者

⇒多様なライフスタイルの実現に向けて
ライフステージごとに必要な施策を実施。

2-2 次期人口減少対策の方向性(案) (進学期・就職期)



進学期 福山で暮らす“未来を描く”

- ✓ まちの魅力、にぎわいを体感できる場の創出
- ✓ 地元企業の認知度向上の取組の強化

就職期

オンラインで接点を「継続」 オフラインで接点を「強く」

- ✓ オンラインを活用して地元企業や市内就職の魅力（柔軟な働き方視点含め）をPR
- ✓ オンライン・オフラインを効果的に組み合わせ学生との接点を継続・強化し、地元就職を促進

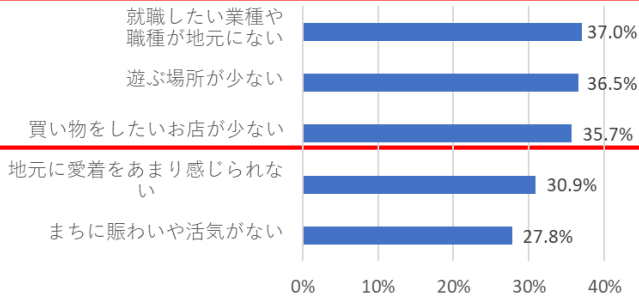
- ・ 高校生（進路検討期）
- ・ 就活大学生

企業の魅力 安心・柔軟に働ける魅力的な企業イメージを醸成

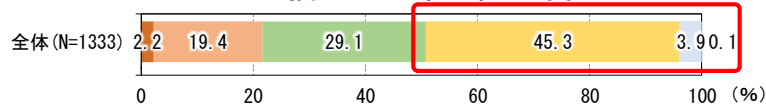
- ✓ 奨学金返済への支援などの、学生の負担軽減や企業の魅力向上
- ✓ 中小事業者のデジタル化や多様な働き方ができる職場環境づくりを加速

【高校生】

福山市に戻りたくない理由（上位5項目）



福山の企業の認知度

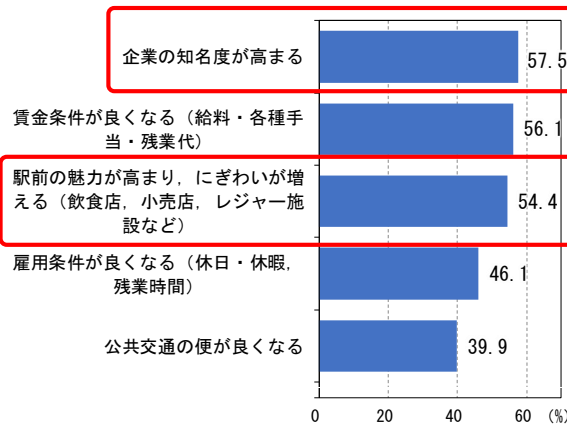


- よく知っている (30社以上)
- まあまあ知っている (10社以上30社未満)
- 少しは知っている (5社以上10社未満)
- あまり知らない (1社以上5社未満)
- 1社も知らない
- 不明

出所：若者の定住意向に関するアンケート調査（2020年7月）

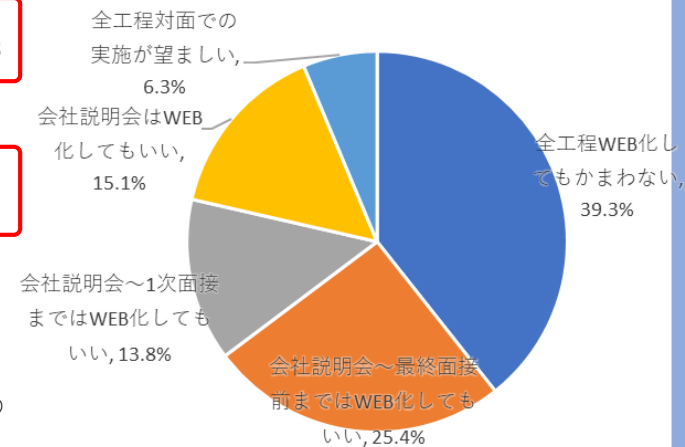
【大学生】

福山に就職する学生が増えるために必要なこと（上位5項目）



出所：市外に進学した福山市出身学生の就職観等に関するアンケート調査（2020年6月）

就活における「WEB」への考え



出所：株式会社マイナビ「マイナビ2022卒大学生生活動実態調査」（2021年3月）



出産希望期

子どもを持つ「不安<期待感」へ

- ✓ 子どもを持つことへの漠然とした不安の解消（ライフプランの構築を支援）
- ✓ 夫婦・親子で楽しめる場所の創出や、それを知るきっかけづくり

妊娠・出産・子育て期

家事・育児に関する負担やストレスの軽減・分散

- ✓ 家庭や職場，地域など，社会全体でのサポート体制を構築

子育て環境

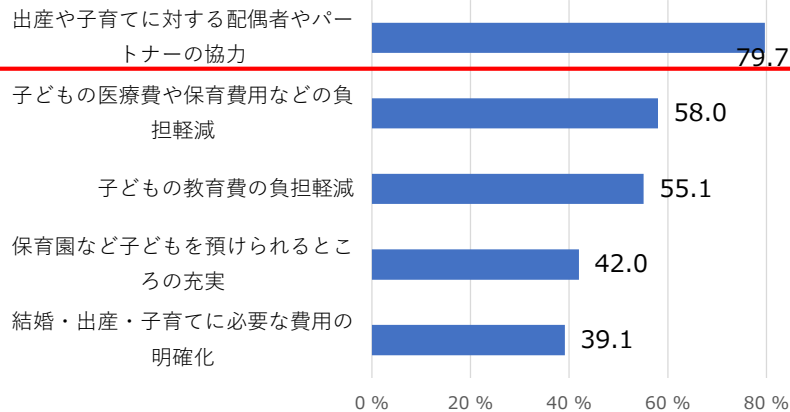
希望の子育てを支え，叶える

- ✓ 福山ネウボラによる総合的な子育て支援の充実・強化

・子育て世代

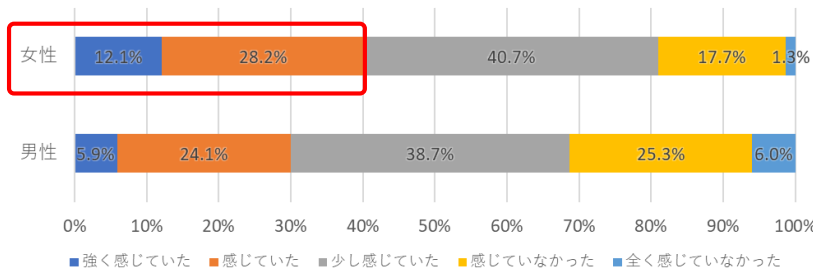
専業主婦や共働きなど
ライフスタイルごと

理想の子どもの数を持つための条件（上位5項目）



出所：「市政に対するニーズ把握のための定量調査」（2018年） 福山市在住，既婚の回答者を集計

仕事と家庭生活の両立によるストレス



出所：株式会社リクルート「全国就業実態パネル調査2021臨時追跡調査」（2021年5月）

AIによる未来予測分析（京都大学等との共同研究）

（理想の子どもの数の上昇・実現等に向けた10年後の分岐までに必要なポイント）

- 男性の育児参加促進，家庭や地域などの子育て支援体制の充実，経済面の不安の解消，子どもが健やかに成長できる環境の充実など

2-4 次期人口減少対策の方向性(案) (移住)



・移住希望者 (未婚・既婚)

仕事・交流

働きながら・仕事を探しながら 福山の暮らしに触れる機会を提供

- ✓ 社会人インターンシップやワーケーション、兼業・副業などビジネスをきっかけに、福山を訪れ、暮らしにふれる機会を提供
- ✓ 滞在時に地域や地元企業との交流の機会を創出

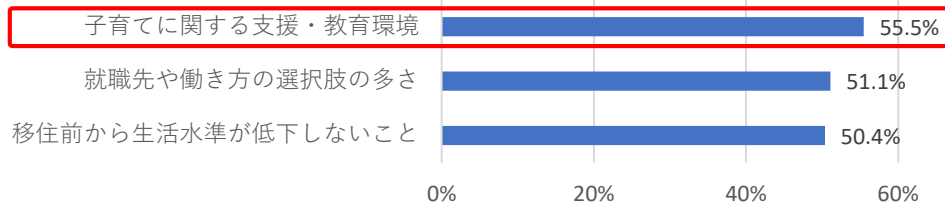
都市イメージ

福山の子育て環境の強みを発信

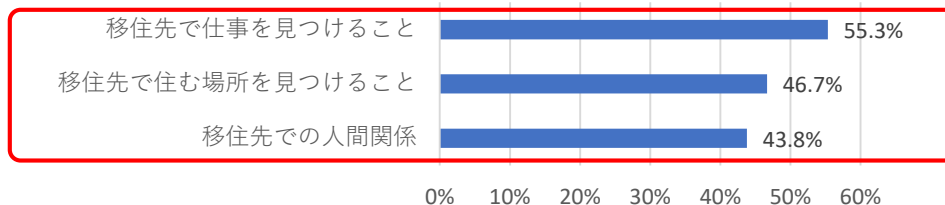
- ✓ 「福山ネウボラ」などの子育て支援策や生活環境など、福山での子育てのしやすさをPRするとともに、移住後の子育てに関する不安や負担の軽減に向けた支援を実施

移住先を選ぶときに重視すること (上位5項目)

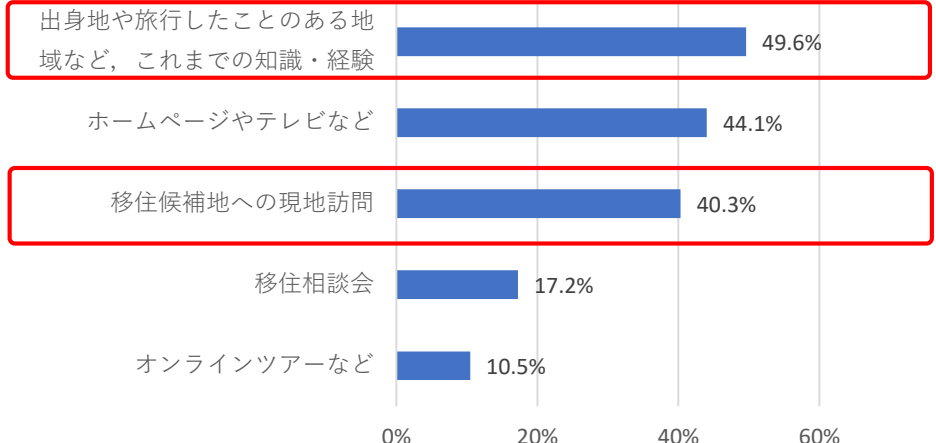
※30~40歳代、子ども(小学生未満)と同居



移住を決断するにあたってのハードル (上位5項目)



移住情報の収集方法 (上位5項目)



出所：「福山移住に関するアンケート」(2021年3月)

【重点ペルソナ】
3人目を考えている25~39歳
子育て中の共働き女性



分岐点に必要な主な状況 (ポイント)

- ・ 経済的な余裕の実感
- ・ 男性の家事・育児サポートの定着
- ・ 三世代や地域での子育て支援体制の充実
- ・ 子育てや仕事のストレス軽減
- ・ 子どもが健やかに成長できる環境の充実
- ・ 女性が働きやすい、働きたくなる職場の増加

主なポイント

親子で楽しめる環境の充実
(イベント、文化施設、スポーツ環境)

主なポイント

仕事と生活が共に充実

30年後

理想の子どもの数の
上昇・実現
満足度の高い子育て
と働き方の実現

現在

2025

10年後

15年後

25年後

10年後の分岐までに
必要なポイントを達成

- ・ 男性の育児参加促進
- ・ 三世代や地域における子育て支援の充実
- ・ 経済面の不安の解消など

各分岐点から予測される
他の未来の特徴

女性の活躍が少ない
プライベートの幸福度が低い

仕事に疲弊、
親子の関係が悪化

出生率が上がらない

2-5 次期人口減少対策策定に向けたスケジュール(案)

項目	2021 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022 1月	2月	3月
次期強化策・アクションプラン	実績まとめ、成果の整理		次期強化策・アクションプラン骨子作成			次期強化策・アクションプラン素案作成			次期強化策・アクションプラン案作成		策定
ペルソナの見直し・施策構築	ペルソナ見直しの必要性・方向性検討										
各種アンケートの実施	<div style="border: 2px solid green; padding: 10px; margin: 10px;"> <p>● 高校生アンケート実施 → ● 高校生アンケートまとめ</p> <p>● 子育て世帯アンケート実施 → ● 子育て世帯アンケートまとめ</p> <p>● 市政モニターアンケート実施 → ● 市政モニターアンケートまとめ</p> </div>										
ライフスタイル応援会議	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin: 10px;"> <p>● 第1回会議 (人口動態, 今後の方向性, 実績)</p> <p>● 第2回会議 (次期強化策たたき台, 次年度に向けた提案)</p> <p>● 第3回会議 (次期強化策・アクションプラン案)</p> </div>										

⇒みんなのライフスタイル応援会議において、次期強化策策定や次年度以降の施策構築に向けて議論。

3 アクションプラン2021の推進

人材確保（基金創設）

○未来創生人材育成奨学ローン返済補助 **NEW**

金融機関と連携した低金利の奨学資金制度と市内での就職を条件とした返済補助

対象：デジタル人材，保育士，看護師をめざす学生

6/21募集開始

○企業による奨学金返済支援制度 **NEW**

従業員に対する奨学金返済支援制度を創設した企業への補助

5/20募集開始

企業の魅力向上

○課題解決支援事業補助（案）

IT・IoTの導入やテレワーク環境などを整備する企業への補助

7月補正予算要求

○びんごデジタルラボ（キッズラボ）・ICT相談所の開設

- ・ 備後圏域内の中小企業等のICT化を支援するため，相談窓口や事例研究の場を設置
- ・ 子どもたちが先端技術を体感できる「びんごキッズラボ」の開催

11月開催予定

○男性の育児休業取得支援 **NEW**

企業が男性の育児休業取得者の代替人材を確保する経費の補助

5/20募集開始

子育て環境の充実

○ネウボラ相談窓口「あのね」と「えほんの国」の再開

天満屋福山店でネウボラ相談窓口「あのね」と「えほんの国」の再開

5/1再開

○ファイナンシャルプランナー相談 **NEW**

ライフプランや経済面の不安などを気軽に相談できる体制の整備

5月から相談受付開始

転職・移住

○社会人インターンシップ

都市圏等から地方への転職・移住希望者に市内企業でのインターンシップを実施

6/28募集開始

NEW 仕事と生活のイメージづくりを地域ガイド事業で支援

関係人口の創出

○ワーケーションふくやま

福山市を拠点に、働くこと・暮らすことの魅力を体験しながら、地域活性化に取り組む企業・人材を誘致

7月中募集開始

備後圏域外の企業や人材がワーケーションする際の交通費や滞在費等を補助

NEW 宿泊事業者等のワーケーションプラン造成費用を補助

○兼業・副業の普及促進

NEW 都市圏等の兼業・副業人材と市内企業とのマッチングを支援

8月頃から受入企業の募集開始

3-2 子育てパパ活躍ウィークの実績

2019年度

実施期間：2019年11月3日～11月9日（7日間）

応援企業・団体：参加企業 16社，参加者 約750人

連携企業・団体：取組件数 9件，参加者 約950人

期間中実施したイベント：

親子プログラミング体験，お魚ふれあいイベント，子育てパパ座談会，調理キットの販売 など



2020年度

実施期間：2020年11月3日～11月23日（21日間）

応援企業・団体：参加企業 20社，参加者 約850人

連携企業・団体：取組件数 10件，参加者 約1,100人

期間中実施したイベント：

キッズラボ，FP子育て相談，お買い物スタンプラリー，農業体験，オンラインクッキング講座 など



参加者の声

- ・ 時間を意識することで，段取りよく仕事ができ，少しでも早く帰ることができることに気づいた。
- ・ 心身がリフレッシュし，仕事の生産性向上に結び付いた。

参加企業の声

- ・ 会社として子育てを考える良い機会となった。
- ・ イベントを広報誌でPRすることで，問合せが大幅に増えた。

3-3 子育てパパ活躍ウィークの参加拡大に向けて

- 男性の育児休業取得促進等に関する法改正などを受け、**今後、男性の家事・育児参加の機運がますます高まると**予想される。
- この機運を捉え、より多くの市内企業や従業員に「子育てパパ活躍ウィーク」への参加を促進。**働き方改革と従業員の意識改革の両輪で男性の家事・育児参加を推進。**

参加拡大策

参加企業の ターゲティング

男性の育児休業取得促進等に関する説明会に参加した企業など、法改正により取組意識が高まった企業への訴求

参加企業の メリット感 ↑

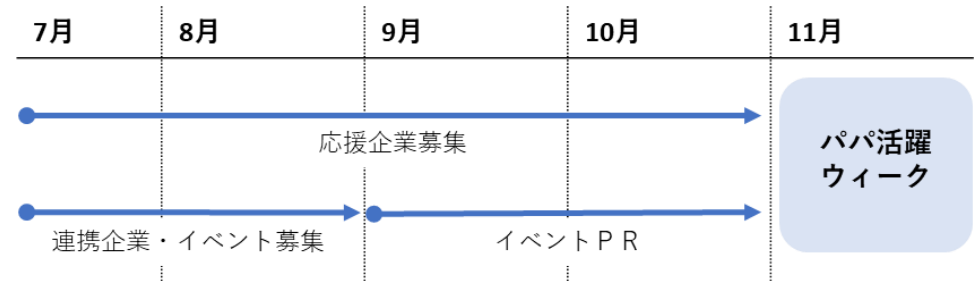
参加企業のイメージアップにつながるよう、就職関連・子育て関連の情報媒体においてPRを強化

コンテンツ の充実

昨年度好評であった「キッズラボ」や民間企業主催イベント等の充実・強化

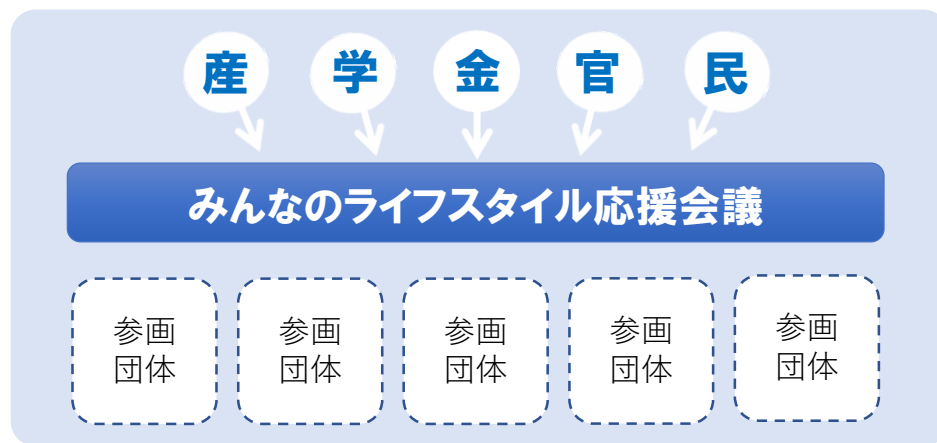


【実施スケジュール】



3-4 みんなのライフスタイル応援会議 ワークショップの開催(案)

- みんなのライフスタイル応援会議の委員や、その若手社員などが自由に参加できるワークショップを開催



ワークショップの開催

ワークショップ形式で自由にアイデアを出し、
官民連携で理想を現実へ！

<テーマイメージ>

- 働きやすい職場にするためには？
- 男性の育児参加を進めるためには？
- 楽しく子育てをするには？

